

氏名 山 縣 浩 一

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2624 号

学位授与の日付 平成 5 年 9 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 気管支喘息における血清 IgE 自己抗体の基礎的並びに臨床的研究

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 中山 睿一 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

気管支喘息の重症難治化の機序に、抗 IgE 自己抗体がいかに係わっているかを検討するため、気管支喘息患者における血清抗 IgE 自己抗体値を測定した。測定法として IgE 骨髄腫蛋白を固相化し、検体希釈を加え、二次抗体として酵素標識抗ヒト IgG 抗体を用い、基質を加えて発色させる酵素抗体法を用いた。その結果、血清抗 IgE 自己抗体は健常人 39 例と比し気管支喘息患者 46 例で有意に高値を示した ($p < 0.01$)。そのうちアトピー型喘息 25 例は非アトピー型喘息 19 例に比し有意に高値を示した。($p < 0.01$)。また、喘息患者血清抗 IgE 自己抗体は血清総 IgE 値 (RIST 値) と正の相関を示した ($r = 0.576$, $p < 0.01$)。さらに、ダニ及びカンジダ ($p < 0.01$) 特異的 IgE 抗体陽性例で抗 IgE 自己抗体は高値を示した。しかし、喘息重症度、気道過敏性、IgE サブクラス抗体、リンパ球幼若化反応、末梢血好酸球数と好塩基球数とはいずれも有意な相関は認められなかった。以上の所見より抗 IgE 自己抗体が I 型アレルギーの関与する喘息病態において重要な役割を果たしていることが推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は気管支喘息の重症難治化の機序に、抗 IgE 自己抗体がいかに係わっているかを検討するため、気管支喘息患者における血清抗 IgE 自己抗体値を測定したものである。その結果抗 IgE 自己抗体が I 型アレルギーの関与する喘息病態において重要な役割を果たしていることが推定された。これは有意義な新知見であり、よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。